

研究成果情報

平成 26 年度

かき「突核無」の果実成熟特性と一斉収穫の適期		
[要約] 「突核無」果実の糖度は、果皮が黄色から緑色の9月20日頃でも「平核無」並みにあり、 <u>一斉収穫の適期</u> は、大半の果実が橙色となる9月30日頃から10月10日頃までで、「平核無」より明らかに糖度が高くなる。		
新潟県農業総合研究所佐渡農業技術センター	連絡先	TEL 0259-63-4102 FAX 0259-63-3972

[背景・ねらい]

「突核無」は小さな果実を多数結実させることから、収穫労力が多大となる。収穫労力の軽減には一斉収穫が有効なため、果実の成熟特性を明らかにし、一斉収穫の適期を示す。

[内容]

- 1 「突核無」は果実が黄色から緑色の9月20日頃でも、糖度は「平核無」並みとなり、着色の進展とともに果実重は増加、糖度は上昇、硬度は低下する（表1）。
- 2 一斉収穫に適する時期は、9割程度の果実が橙色となる9月30日頃からであり、「刀根早生」の収穫盛期より10日程度早い。この時期以降の果実は「平核無」よりも高糖度となる（図）。
- 3 10月10日頃から果皮に条紋（筋状の小さな亀裂）が増え始める。条紋の発生した果実は日持ち性が劣るため、この時期が収穫の晩限となる（表2）。

[導入効果]

適期の一斉収穫により収穫労力が軽減でき、果実品質が向上する。

[導入対象]

「突核無」生産者

[留意点]

- 1 「突核無」の果実は特に水分ストレスを受けやすいため、収穫後の果実に直射日光が当たらないように注意し、流通時も乾燥しないような包装が必要である。
- 2 果実品質は炭酸ガス脱渋法によるもので、方法は平成25年度活用技術「かき「突核無」の布団圧縮袋を用いた簡易な炭酸ガス脱渋方法」を参考にする。アルコール脱渋では日持ちが劣る。
- 3 「突核無」の生育特性は、平成26年度研究成果情報「小果実、種なし、高糖度で、まるごと食べられる「突核無」の特徴」を参照する。

[具体的データ]

表1 時期別の果実品質の特徴（平成23～25年）

品種 ^X	収穫時期	果実重 (g)	甘さ (平核無との比較)	糖度 (Brix%)	脱渋直後 の食感	果肉硬度 (lbs)	果実の色	果皮色 果頂部・てい部 (C.C. 値 ^Y)
突核無	9月20日頃	24	同等	15.6	硬い	11.5	黄～やや緑色	3.4・2.5
	9月30日頃	27	甘い	17.0	サクサク	8.7	橙色	4.7・3.8
	10月10日頃	30	明らかに甘い	18.8	サクサク	7.6	濃い橙色	6.0・5.6
	10月20日頃	33	極めて甘い	19.7	ややマルチング ^Z	5.8	濃い橙～赤橙色	6.8・6.7
刀根早生 平核無	10月13日	197	-	14.6	-	7.1	橙色	4.7・3.5
	10月30日	219	-	15.3	-	5.9	濃い橙色	5.6・4.8

X: 突核無は現地ほ場、刀根早生、平核無は場内の生態調査樹。

Y: 平核無用カラーチャートを使用。以降の図も同様。

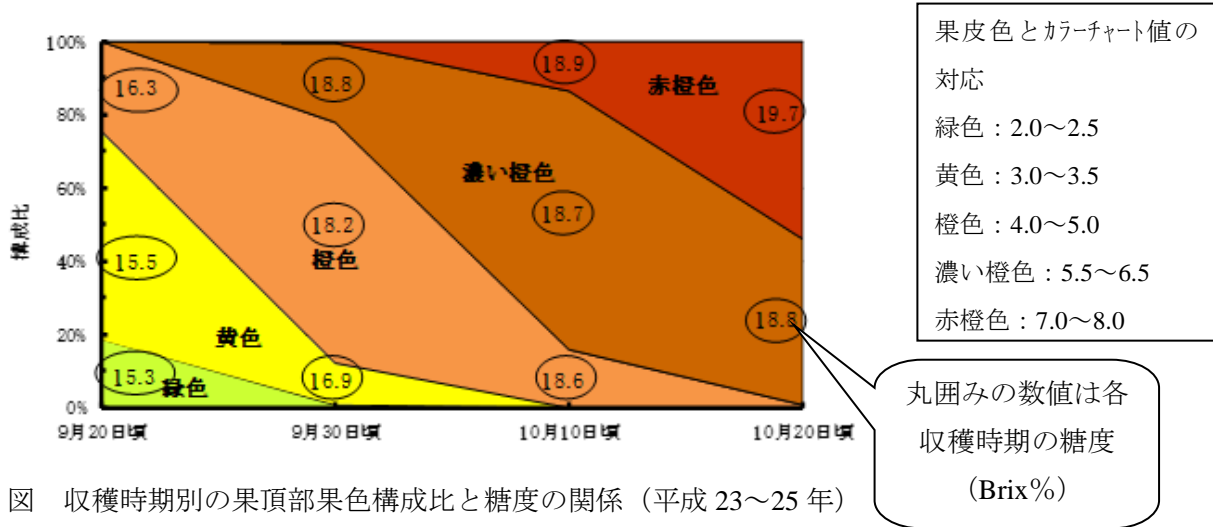


図 収穫時期別の果頂部果色構成比と糖度の関係（平成23～25年）

表2 収穫日別の果実の障害発生率と日持ち（平成25年）

収穫日	障害	発生率 (%)	累積軟果率(%) ^X			
			9日頃	12日頃	17日頃	20日頃
9月20日	健全果	67.7	0.0	1.0	6.7	13.3
	条紋	0.2	データなし			
	日焼け+色ムラ	23.1	2.9	8.6	17.1	28.6
10月1日	健全果	80.2	0.0	0.4	2.2	4.9
	条紋	0.9	0.0	33.3	33.3	66.7
	日焼け+色ムラ	5.1	0.0	7.1	28.6	42.9
10月10日	健全果	70.8	1.1	3.2	3.2	4.2
	条紋	5.3	0.0	0.0	16.7	16.7
	日焼け	11.0	0.0	9.1	9.1	9.1
10月21日	健全果	43.6	0.0	1.1	5.4	7.6
	条紋	32.1	7.5	12.5	22.5	27.5
	日焼け	21.8	0.0	0.0	10.0	25.0

X: 炭酸ガス解放時を起日とした。ガス処理日を含む3日間を25℃とし、以後は20℃恒温。

[その他]

研究課題名：果実の新市場を創成する食べきり・手間なし「ベビーパーシモン」の生産供給技術の開発

予算区分：農林水産業・食品産業科学技術推進事業

研究期間：平成23～25年度 発表論文等：なし